

科目名 **言語文化**

普通科必修  
1年次・2単位

目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指します。

位置づけ 高校国語の基礎的科目として、次年度以降の必修科目「論理国語」「古典探究」の土台となる科目です。文法的な知識や文章の背景にある文化や歴史の知識は、的確に作品を理解するために欠かせないものです。言葉を正しく理解しようとする姿勢を身につけましょう。

■使用する教材

- ・教科書「精選 言語文化」(第一学習社)
- ・参考書「完全マスター古典文法」(第一学習社)、「わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語 330」(いいずな書店)、「基礎から解釈へ 漢文必携」(桐原書店)、「新国語便覧」(第一学習社)
- ・問題集「完全マスター古典文法準拠ノート」、「基礎から解釈へ 漢文必携 チェックノート<基本編>」

■学習する単元とおおよその時期

○前期

- 【4月】古文入門①(古語と現代語の違い)
- 【5月】古文入門②③(品詞の種類・用言の活用)
- 【6月】漢文入門(訓読について)
- 【7月】文学作品の表現技法について(「羅生門」芥川龍之介)
- 【8月】古文入門④(助動詞)
- 【9月】漢文(故事成語)

○後期

- 【10月】古文入門⑤(助詞)、詩の鑑賞
- 【11月】古文入門⑥(敬語)
- 【12月】古文入門⑦(和歌・俳諧)
- 【1月】漢文(漢詩のきまり)
- 【2月】文学作品の構成について(「城の崎にて」志賀直哉)
- 【3月】漢文(史伝を読む)

■授業の流れ、予習・復習を含めた学習方法

- 古典は本文を音読し、歴史的仮名遣いや漢文独特の言い回しに慣れること
- 年間授業計画を参照し、授業実施前に該当の作品の口語訳に挑戦しておくこと
- 授業では新出語や文法、句法の理解や、古文常識・漢文常識などを知っていくこと

■観点別評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	A 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本の言語文化に対する理解を深めている。	・論理的に考えたことや深く共感したり豊かに想像したりしたことを適切に説明できる。 ・他者との関わりの中で自分の思いや考えを適切に伝え合うことができる。 ・自分の思いや考えを広げたり深めたりしたことを適切に表現できる。	・言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。 ・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようとしている。 ・日本の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
	B 授業で扱った国語の知識や技能を身に付け、日本の言語文化を理解している。	・論理的に考えたことや共感したり想像したりしたことを説明できる。 ・他者との関わりの中で自分の思いや考えを伝えることができる。 ・自分の思いや考えを広げたり深めたりしたことを表現できる。	・言葉がもつ価値を理解しようとしている。 ・読書に親しもうとしている。 ・言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
	C 上記が達成できていない	上記が達成できていない	上記が達成できていない
評価の場面	単元テスト、小テスト	単元テスト	課題の提出内容

■領域ごとの授業時間数について

単元名	1 古文入門①～⑦	2 和歌・俳諧	3 漢文入門、漢文読解	4 文学作品の読解	5 詩の鑑賞	
書くこと				1	1	2時間
読むこと（古典）	28	4	20			52時間
読むこと（現代文）				8	2	10時間